

事故を防ぐために

● 眼の粘膜は非常にデリケートです。異物を入れることだけでも目には負担がかかります。薬剤や接着剤を使用したり、色素を入れたり刺激のあるメイクをすることは危険が伴うことを理解しておきましょう。

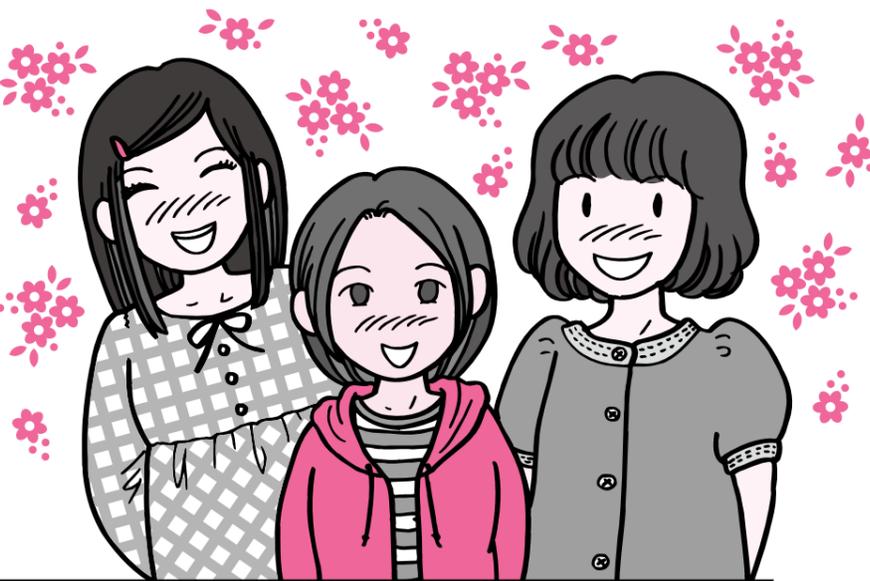
● まつげエクステーションは美容師の資格がないと施術できないことになっています。きちんと資格を取得した人が施術しているかどうか確認しましょう。

● まつ毛パーマについても、使われている用剤は店舗によりさまざまであり安全性は確立していません。

● アートメイクのように、針で色素を入れる施術を安易に施術することは危険が伴います。

● カラーコンタクトレンズは近々高度医療機器取扱いとなります。きちんと検査を受けて医師の指導の下に装用しましょう。

● たとえ施術内容や商品に問題がなくても、体質や体調によっては合わない場合があります。合わないと感じたらすぐに使用をやめて医師の診察を受けましょう。



● 本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/ken/index.html>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、協力病院等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
 特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
 商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
 無断転載はお断りいたします。

独立行政法人
国民生活センター

〒108-8602 東京都港区高輪 3-13-22 TEL.03(3443)1208 ● 2008年10月発行

くらしの危険 Number 286

アイメイクによる 眼の障害に注意

「顔は目で印象が変わる」と言われ、古来より目元のメイクにはいろいろな手法が提案されてきました。

最近では、“目ちから”メイクや、人形のようにぱっちりとした目を作るメイクが流行し、目をはっきりと印象づけるための化粧品、まつ毛エクステやパーマ、カラーコンタクトレンズ、さらにはアートメイクなど、多種多様な手法が考案されています。

しかし、こういった手法の中には安全面であまりお勧めできないものもあります。眼は非常にデリケートな部位です。なりたい自分を実現させるために、眼に無理をさせるのは禁物です。



こんな事故が起きています!?

マスカラ・アイライナー

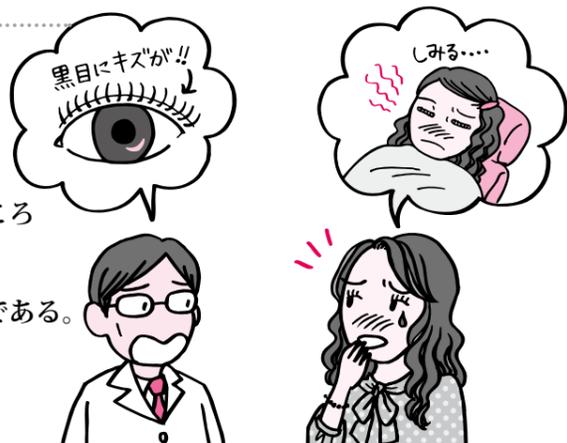
ケース 1 マスカラが落ちにくく 30 分ほどかかって取っているうちに目が腫れまつ毛も抜けた。メイク落としでも落ちなかった。
(20代 女性 無職)

まつ毛エクステ

ケース 2 フリーペーパーで広告を見て、まつ毛パーマとエクステの専門店でもつ毛エクステをした。まつ毛がつれてまつ毛の生え際も赤く腫れ、両目が痛い。
(40代 女性 家事従事者)

まつ毛パーマ

ケース 3 雑誌広告を見て行った店でまつ毛パーマをかけた。かけている途中で染みたが、痛みが治まらず眼科で治療を受けたところ黒目に傷が入っているとされた。痛みは治まったが視界がかすんだままである。
(30代 女性 給与生活者)

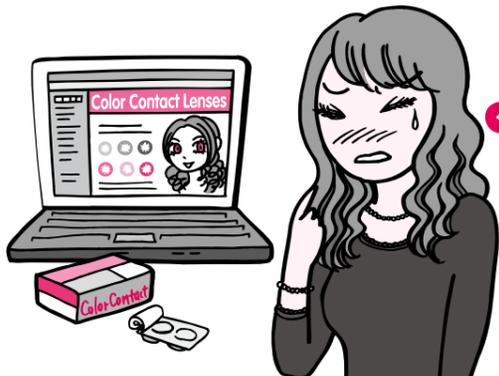


アートメイク

ケース 4 チラシ広告を見てアイラインのアートメイクをしてもらったら腫れが一週間続いて、黒いしみもできた。
(30代 女性 給与生活者)

カラーコンタクトレンズ

ケース 5 インターネット通販で外国製のカラーコンタクトレンズを購入。7時間使用した後はずしたら眼がぼやけて見えなくなり眼科へ行った。目薬を点眼してもらい帰宅したが、その後痛くて眼が開けられなくなり別の眼科を受診。両眼角膜上皮剥離で完治に2週間かかった。
(20代 女性 学生)



粘膜にアイラインを引く危険性について

まぶたの際にアイラインやアイシャドーを塗る化粧法がドライアイなどの病気を引き起こす可能性が高いことが岩手県の眼科医の調査でわかり、日本コンタクトレンズ学会で発表されました。

女性誌などで「目が大きくはっきり見える」として、まつ毛のあいだを埋めるようにアイラインを塗ったり、まぶたの際の粘膜にアイシャドーを塗る化粧法が紹介されています。

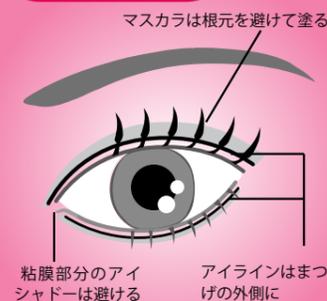
しかし、まぶたのふちには目を保護する油を出す分泌腺があり、この腺が化粧でふさがれることにより、涙の層が部分的にはげたり厚さが不均一になり目のかすみや痛みを生じるドライアイの状態になりやすくなることがわかりました。また、粘膜部分に化粧を繰り返した結果、皮膚炎やまつ毛の脱毛などを起こした例もありました。

(鈴木眼科吉小路 鈴木武敏医師 日本コンタクトレンズ学会の発表より)

目に悪い例 まつげの根元からマスカラを塗る



目に優しい例



カラーコンタクトレンズの危険な使用

ある雑誌の読者のメイク術紹介記事の中で、「カラーコンタクトレンズを2枚重ねる」「カラーコンタクトレンズを裏返しにつける」などの方法が紹介されていました。雑誌には「まねしてはいけない」や「自己責任で行うこと」などの注意はありましたが、これは非常に危険なことです。まねするのは絶対にやめましょう。

このような情報を掲載する雑誌にも内容の精査が望まれます。

カラーコンタクトレンズの規制

通信販売やディスカウントショップで購入できる雑貨扱いとなっていたカラーコンタクトレンズで危害が多発していることから、厚生労働省と経済産業省では、今後医療機器として薬事法で規制することにしました。2008年度内に薬事法を改正し医療機器とする予定です。

医療機器となると、販売には都道府県知事の許可が必要になり、厳しく管理が義務付けられます。